

英語教育改善プラン推進事業 第2回ワーキング会議



令和4年9月27日（火）

県総合教育センター第4研修室他
義務教育課・高校教育課

Today's Menu

事務局より

- ①これまでの振り返り (R4提案授業のポイント)
- ②第3回ワーキング会議・成果発表会において
- ③指導案検討 (分科会) について

山梨県英語教育改善プラン推進事業 (令和3年度～令和4年度)

【背景】

- 「第3期教育振興基本計画(2018～2022)」及び新学習指導要領。
- グローバル化の進展に伴い、国内外の様々な場面において、外国語で躊躇なく意見を述べ、他者と交流し、共生する力の育成が求められる。
- 英語教育の水準の向上(小学校における質の高い指導体制の充実、中学校卒業時の英語力CEFR A1 50%以上、高等学校卒業時の英語力CEFR A2 50%以上、小・中・高等学校を通じた教師の英語による指導力向上)

【課題】

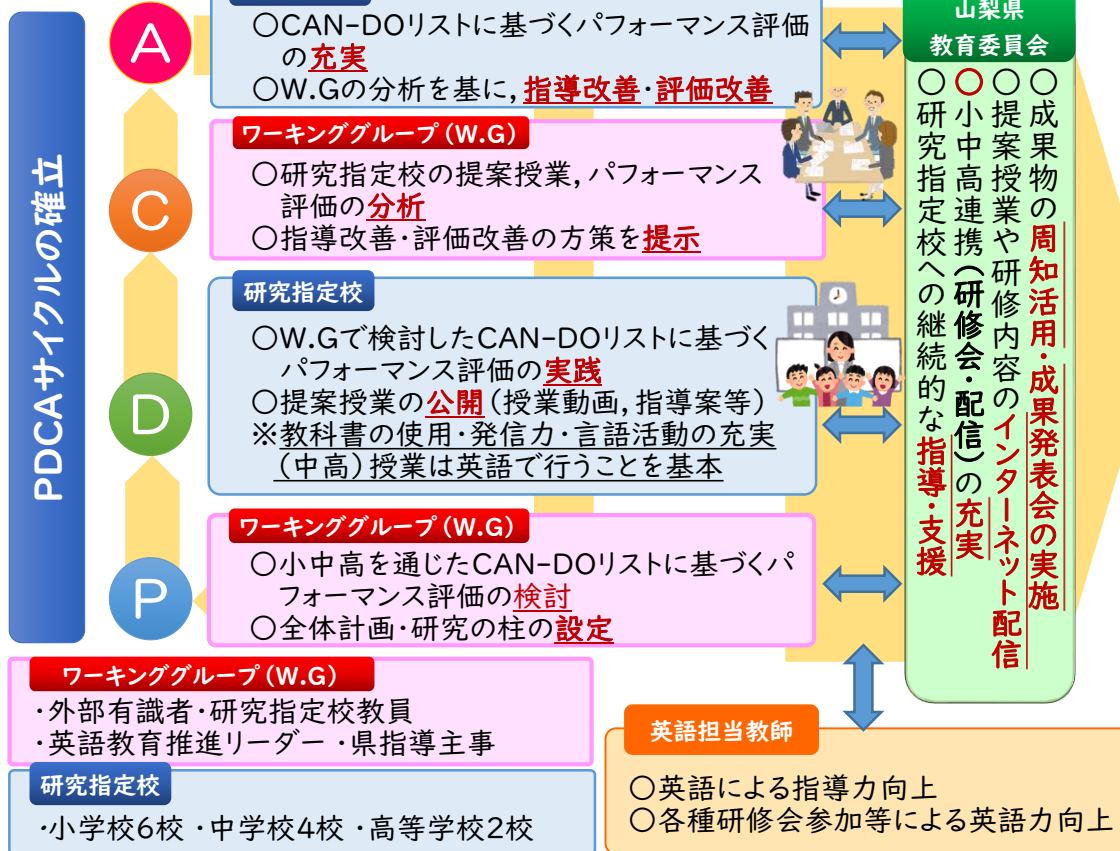
- 「話すこと」において、英語による指導や信頼性・妥当性ある評価に課題。
- 国の各調査結果から、中学生・高校生の「話すこと」「書くこと」に課題。
- 中学校卒業時の生徒の英語力 山梨県39.3%(R3)
高等学校卒業時の生徒の英語力 山梨県48.9%(R3)
- 教師の英語力 山梨県中学校32.0%(R3) 高等学校82.2%(R3)
- 「CAN-DOリスト」※1の学習指導・評価への活用が課題。

※1 CAN-DOリスト：外国語における4技能5領域ごとに「～することができる」という学習到達目標を記述したもの。

【事業目的】

小・中・高等学校を通じて、グローバル社会に生きる児童生徒に求められる発信力を向上させるために、実際の目的・場面・状況に応じて英語を活用する課題(パフォーマンス課題)を設定し、言語活動を通して、指導・評価するモデルを充実させる。

【事業内容】



小・中・高等学校

- 校内研究会等で成果物の活用
- 言語活動を中心に据えた授業実践
- 小中高連携の充実



県下・全国に波及する効果

- 児童生徒が、自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う発信力の強化。
- 小・中・高等学校を通じたCAN-DOリストに基づくパフォーマンス課題を年間指導計画に位置付け、指導・評価するモデルの充実。
- 教科書(デジタル教科書を含む)を使用した効果的かつ持続可能な指導方法や評価方法の開発。
- 小中高連携の充実(指導・評価、内容・方法の共有)
- 授業における、言語活動時間と英語使用量の増加。
- 英語担当教師の指導力・英語力の向上。

児童生徒の
英語発信力向上



Yamanashi Model 充実

～発信力向上を目指して～

キーワード

柱1：児童生徒の**発信力**（話す・書く力）の充実

柱2：**言語活動**の充実

柱3：**パフォーマンス評価**の充実



- **小中高連携・接続**
- 教師の**英語による指導力**向上（質の高い指導体制の充実）
- **全国的な英語教育**の水準の向上、**持続可能**な体制の構築

山梨県英語教育 改善プラン推進事業

R2

県事業

(R2～) 常永小・小立小・押原中・湖南中
(R3～) 韮崎小・加納岩小・睦合小・丹波小
南西中・長坂中
甲府昭和高校・富士河口湖高校

英語教育改善
プラン策定
【Plan】

各自治体の実態・
課題に応じた具体
的な取組【Do】

英語教育実施
状況調査 等
【Check】

各自治体の取組を
分析し、次年度へ
【Action】

R3

英語教育改善
プラン策定
【Plan】

各自治体の実態・
課題に応じた具体
的な取組【Do】

英語教育実施
状況調査 等
【Check】

各自治体の取組を
分析し、次年度へ
【Action】

R4

英語教育改善
プラン策定
【Plan】

各自治体の実態・
課題に応じた具体
的な取組【Do】

英語教育実施
状況調査 等
【Check】

各自治体の取組を
分析し、次年度へ
【Action】

成果発表会（全国へ）

○R3年度調査結果から見えてきた課題

ア 「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標を評価に活用することに課題がある。

⇒ 柱3:パフォーマンス評価の充実 亀谷みゆき教授

イ 校種があがるにつれて、言語活動時間や教師の英語使用量が減少する。

⇒ 柱2:言語活動の充実 太田洋教授

ウ 求められる英語力を有する生徒・教師の割合が低い。

⇒ 柱1:発信力の充実 田中武夫教授

○R3年度調査結果から見えてきた課題

ア 「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標を評価に活用することに課題がある。

⇒ 柱3:パフォーマンス評価の充実 亀谷みゆき教授

イ 校種があがるにつれて、言語活動時間や教師の英語使用量が減少する。

⇒ 柱2:言語活動の充実 太田洋教授

ウ 求められる英語力を有する生徒・教師の割合が低い。

⇒ 柱1:発信力の充実 田中武夫教授

1. 研究指定校の取り組みについて

<課題>

- ・CAN-DOリスト→年間指導計画へ
- ・(引き続き) 大きなCAN-DOから小さなCAN-DOへ
→ 言語活動やパフォーマンス課題・テストの妥当性・信頼性の担保
- ・「話すこと[やり取り]」について生徒の姿の変容
→ 「やり取り」の定義や段階的指導の充実⇒やり取りを通して
→ 良質なインプットをどうするか「読むこと」「聞くこと」の指導
→ 英コミュと論表の指導と評価



インプット：豊富に担保すべき
アウトプット：日常おこなうべき
技能統合的な言語活動

What should we do then?

教師が出来ること:

- **単元目標**を明らかにした授業づくりと評価の工夫をする。
- 教師自身が**英語でのinteractionの場数**を踏み
生徒と英語で**意味あるやり取り**をする。
- **生徒の脳が動く発問**づくりに努める。
教師自身が**トピックに興味を持ち楽しく学ぶ。**



What should we do then?

英語科全体で出来ること:

○テスト:

年度（学期）始めに**出題内容と重点指導項目**を決めておく

○ワークシート:

何が重要かがわかる・どんな力がつくのか分かる授業をする

○CAN-DO リスト:

単元目標（小さなCAN-DOリスト）との紐づけ

目標-指導-評価が線で結べるようにする

（目標・指導・評価の一体化）

(大きなCAN-DO) CAN-DO リストの形での学習到達目標



年間指導計画



(小さなCAN-DO) 各單元における目標



評価方法の決定



各時の学習指導計画

2. 今年度の取り組みに向けて

<改善に向けて>

- ・県全体への周知:研究指定校だけにならないように
 - 他県とのアライアンス
 - 授業ビデオの活用
- ・研究指定校内での指導と評価の質向上
 - コミュニケーションを行う目的・場面・状況の設定
- ・さらなる小中高連携強化
 - 山梨CAN-DOリストの見直し
 - ⇒パフォーマンス課題とのつながり
 - CAN-DOリストを年間指導計画へ
 - ⇒大きなCAN-DOから小さなCAN-DOへ



○R3年度調査結果から見えてきた課題

ア 「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標を評価に活用することに課題がある。

⇒ 柱3: パフォーマンス評価の充実 亀谷みゆき教授

イ 校種があがるにつれて、言語活動時間や教師の英語使用量が減少する。

⇒ 柱2: 言語活動の充実 太田洋教授

ウ 求められる英語力を有する生徒・教師の割合が低い。

⇒ 柱1: 発信力の充実 田中武夫教授

言語活動の充実

2022.5.23

太田 洋

oota-h@tokyo-kasei.ac.jp

東京家政大学人文学部

1年目を振り返って —先生方の声から（一部）

- 「授業外で使う」
- 「こんなことが言いたい。生徒からの質問が増えた」
- 「やりとりを先生が楽しむ」
- 「生徒がポツポツと言う」
- 「生徒の表現の幅が広がった」
- 「生徒がテストでHe doesn't like...が書ける（音のつながり）」

成果と課題

- 単元末活動はOK

↓

- 日々の授業の言語活動は？

提案

1. T-Sのやりとり
2. 教科書本文の活用
3. 学習活動を．．．帯活動で、．．．？



非公開

非公開

ポイントは、、、

- How about you?
- What do you think?
- T-S interaction \Leftrightarrow S-S interaction



Walsh (2006) Self-evaluation of Teacher Talk

酒井・廣森・吉田(編著) (2018)

A. 援助 scaffolding

1. 生徒の発話を言い換える Reformulation
2. 生徒の発話の継続を助ける Extension
3. モデルを提示する Modelling

B. 直接修正 Direct repair

C. 内容に関するフィードバック Content feedback

D. 長い待機時間 Extended wait time

E. 指示発問 (教師も答えを知らない純粋な質問)

Referential questions

Walsh (2006) Self-evaluation of Teacher Talk

F. 確認 Seeking clarification

G. 一連の生徒発話 extended learner turn

H. 教師の繰り返し teacher echo

I. 教師の介入 teacher interruption

J. 一連の教師発話 extended teacher turn

K. 教師による発話の完了 turn completion

L. 提示質問 (教師が答えを知っている質問)

display question

M. 言語形式に関するフィードバック

form-focused feedback

ICTはどのように活用できるか？

- 一斉⇔個別⇔ペア、グループ
- 一斉で
 - ・ 共有する
 - ・ 既習ページに戻る（振り返る）
- 個別で
 - ・ 聞く・見る（文字あり、なし）
 - ・ 話す・書く
 - ・ 録音する
- ペア、グループで
 - ・ 話す
 - ・ アフレコ
 - ・ 録音する

文部科学省「学習者用デジタル教科書について」

- https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/seido/1407731.htm



○R3年度調査結果から見えてきた課題

ア 「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標を評価に活用することに課題がある。

⇒ 柱3: パフォーマンス評価の充実 亀谷みゆき教授

イ 校種があがるにつれて、言語活動時間や教師の英語使用量が減少する。

⇒ 柱2: 言語活動の充実 太田洋教授

ウ 求められる英語力を有する生徒・教師の割合が低い。

⇒ 柱1: 発信力の充実 田中武夫教授

児童生徒の発信力を高めるために

田中武夫（山梨大学）

山梨県英語教育改善プラン推進事業
ワーキング会議
2022年5月23日

1

発信力とは

中学校と高校の学習指導要領から考えると

聞いたり読んだりしたことをもとに、自分の考えや気持ちを話したり（伝え合ったり）書いたりする

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを表現する

自分の考えや気持ちを論理的に（適切な英語で）表現する

2

昨年度の推進事業における成果と課題

1. 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況を教師と児童生徒が共有することができた（が、日々の授業と関連付けができていたかどうか？）
2. 授業での児童生徒同士の英語のやり取りを促すことができた（が、日頃の授業での教師と児童生徒とのやり取りは十分にあったかどうか？）
3. 授業での言語活動（やり取り）を設定することはできた（が、活動後しっかり振り返り、児童生徒の知識・技能の定着に確実につなげることができていたかどうか？）

3

児童生徒の英語での発信力を鍛える



どのように日々の授業の中で教師と児童生徒のやり取りを充実させるか



4

スモールトークとは？

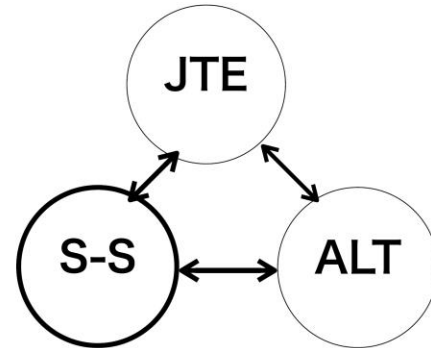
即興で

- ・身近な話題について、**教師と児童**、あるいは、**児童同士**がやり取りする活動
- ・**既習表現を繰り返して**使用できるようにしてその**定着**を図る
- ・**対話を続けるための**基本的な表現の定着を図る

『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』

5

英語でのやり取りの理想は？



6

英語教育改善プラン推進事業
提案授業①
～言語活動を意識した授業づくり～

2021年10月26日
葦崎小学校

ALT: Samantha Chen JTE: 佐藤 岳人 HRT: 仁科 遼

第4学年 外国語活動
Let's Try! 2 Unit 8 (第3時間目/4時間)
This is my favorite place.

ALT
Brian Vanek

教諭
松田 大樹

昭和町立押原小学校

2020年1月末撮影

日頃の授業での教師と児童生徒とのやり取りの中で発信力を鍛えるために

- どのようにやり取りの中で**既習表現**に触れさせるか？
- どのようにやり取りの中で**既習表現**を児童生徒から引き出すか？



9

どのようにやり取りの中で既習表現に触れさせるか①

- 会話のデモンストレーション

JTE: Which season do you like?

John: I like summer.

JTE: **Oh, you like summer. Why?**

John: We can enjoy swimming in summer.

JTE: **We can enjoy swimming in summer. Nice.**

言い換え

質問

繰り返し

リアクション

日頃の教師の行動を見て、児童生徒はその行動を真似るようになる

10

どのようにやり取りの中で既習表現に触れさせるか②

- デモンストレーションの内容確認で

T: John sensei said, **I like...**

S: Summer.

T: Yes, John sensei said, **I like summer.**

T: **Why? We can...?**

S: Enjoy swimming.

T: **We can enjoy swimming. OK?**

S: OK.

T: Very good.

既習表現を思い出させる

既習表現を繰り返す

既習表現を思い出させる

既習表現を繰り返す

リスニング活動や言語活動後の共有後の内容確認でも同様のやり取りが可能

11

どのようにやり取りの中で既習表現を児童生徒から引き出すか①

- 教師-児童生徒とのやり取りの中で

T: Oh, you like summer. Why?

S: ...

T: **We can ...**

S: We can enjoy swimming.

T: **Oh, we can enjoy swimming. Nice.**

既習表現を思い出させる

既習表現を繰り返す

言語活動前の練習や言語活動後の共有でも同様のやり取りが可能

12

どのようにやり取りの中で既習表現を 児童生徒から引き出すか②

●教師-児童生徒とのやり取りの中で

T: Which season do you like?

S1: Summer.

T: You like summer. Why?

日本語で既習表現を思い出させる

S1: Swim.

T: 夏は水泳が楽しめるってどう言うんだっけ?

既習表現を全員に
繰り返させる

S2: We can enjoy swimming in summer.

T: Good. Everyone, one, two.

既習表現を繰り返す

SS: We can enjoy swimming in summer.

T: We can enjoy swimming in summer. Very Good.

言語活動前の練習や言語活動後の共有でも
同様のやり取りが可能

13

児童生徒の英語での**発信力**を鍛えるためには

どのように単元や日々の授業の中で、**発信力**
を高める**足場づくり**を充実させるか

- 教師と児童生徒のやり取りの充実
- 言語活動と学習活動のバランス
- ICTの活用（表現のためのさまざまな支援）



14

OR4年度取り組むべきポイント(=提案授業のポイント)

※大学教授の指導助言より



➤ T-S Interaction

意味のあるやり取り 既習表現にどう触れるか? 児童生徒からどう引き出すか?

➤ 教科書の本文の活用 How about you? What do you think?

➤ 日々の授業の言語活動 単元末の言語活動・パフォテは充実

➤ 領域統合型の言語活動

良質なインプットとアウトプット 児童生徒が思考する発問

➤ 言語活動と言語学習のバランス

➤ ICT・学習者用デジタル教科書等の活用

➤ CAN-DOリスト→年間指導計画・パフォーマンステスト

➤ 県全体・全国への周知・授業動画の活用

- ①英語使用が豊富な言語活動を中心に据えた授業づくり
- ②パフォーマンス評価
- ③教科書（デジタル教科書）の活用
- ④CAN-DOリストの活用
- ⑤小中高連携
- ⑥海外の児童生徒やALT 等と直接コミュニケーションを行う取組
- ⑦自治体連携による英語教育改善のためのアライアンス
（山梨県・静岡県・三重県・鹿児島県）
- ⑧外部検定試験（実用英語技能検定）による成果指標（中3）
- ⑨成果発表会（全国へ：県外オンライン参加）
- ⑩山梨県英語教育改善プラン推進事業YouTubeチャンネル開設
Yamanashi English Channel (YEC)

英語教育改善プラン推進事業 研究指定校アンケート(第4回)

小学校(教員用・児童用) 中学校(教員用・生徒用) 高等学校(教員用・生徒用)

○目的

本事業を通して、英語担当教師が授業改善(指導改善・評価改善)を行うとともに、児童生徒が学習改善をしながら、英語による発信力を向上させていく変容を見取る。また、本事業の成果と課題を明確化するツールとする。

○対象

教員:外国語(英語)担当教師全員(外国語活動・外国語科担当教師)

児童生徒:外国語(英語)を学習している児童・生徒全員が基本

○時期

第2回:1月中旬 ※提出期限:1月19日(木)

○方法

- ・Google フォーム or Microsoft Forms
- ・Excel

○その他

- ・調査項目は変えずに実施し、提出してください。
- ・校内研等使う場合は、調査項目を加えても構いません。

提案授業指導案検討について

進め方(例)

司会()TC

①各校からの説明【5分～10分】

特に本時について、悩んでいることや相談したいことを中心に説明

②全体検討【10分】

③有識者指導助言【15分】

※②と③は同時におこなっていただいても構いません。

【参考】 R4年度取り組むべきポイント(=提案授業のポイント)

※大学教授の指導助言より

Thank you for your attention.